

原発連事務局FAX通信 第1015号 2020年 8月14日
原発問題全道連絡会 事務局発行 Tel:011-777-1060、Fax:011-777-1061

核のごみの最終処分場建設への重大な一歩・寿都町長の文献調査応募表明には賛成できません

一町財政確保を口実に、町の未来と町民の安全・暮らし切り捨ては困ります一

寿都町の片岡春雄町長が8月12日、将来（10年先）の町の財政を見据え、核のごみの深地層処分場建設への最初の一步となる文献調査に応募する検討を表明と、13日にいっせいに報道されています。報道によると、この動きは、6月定例議会直後から町議会に表明、町内の経済関係5団体の幹部にも説明するなどして、8月中に町民への説明会を行って正式に表明したいと急展開の動きとなっています。これは政府・経産省が、2017年7月末に深地層処分の適地を示すとした「科学的特性マップ」公表後、全国で初の応募表明です。

核のごみの深地層処分方針には国民合意がない

片岡町長は、この間、国や道から核のごみの深地層処分方針に基づく最終処分場建設の説明を受け、その第一段階の文献調査応募で最大20億円、第2段階の概要調査受け入れで70億円、合計90億円の交付金が受け取れることから、町の財政の将来を見据えて応募するとの考えが報道されています。

しかし、政府・経産省の核のごみの深地層処分方針は、国民合意がないものです。現に、日本学術会議は2回の提言で、「原発をめぐる大局的政策についての合意形成に十分取り組まないまま高レベル放射性廃棄物の最終処分地の選定という個別的課題について合意形成を求めるのは、手順として適切でない。逆転している」（2012年）とか、「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言—国民的合意形成に向けた暫定保管（①暫定保管の方法は、…乾式（空冷）で、…地上保管が望ましい。②暫定保管期間は原則50年）」（2015年）などを提起しています。また、政府と原子力発電環境整備機構（NUMO）が進めている地層処分についても、地質学者・地震学者・技術者からも、核廃棄物を数万年以上も安全に地層中に保管できるのか、むしろ危険なことではないかなどとの懸念の声も上がっています。

学者や研究者、専門家の意見や見解もきいて考慮に入れるべき

寿都町長は、こうした学者や研究者、技術者などの意見も聞いて、危険極まりない高レベル放射性廃棄物の処理処分について、本当に町のため町民のためになるのか、慎重に検討すべきではないでしょうか。町財政の将来を見据えてともいわれていますが、長年にわたる国の地方切り捨て政治や、平成の大合併による地方財政圧縮・削減など、地方財政切り捨ても視野に入れて地方財政制度の在り方を考えることが重要ではないでしょうか。安易に迷惑施設を受け入れさせるための国の交付金をあてにするのでは、先に手を挙げた自治体だけが国の交付金を手にするにすぎず、真に将来を見据えた地方財政対策とはならないでしょう。

最終処分場建設は、風評被害含め寿都町はじめ後志地方全域を危うくする

寿都町長は、町と町民のためを考えて文献調査に応募するとの考えを述べています。しかし、核のごみの深地層処分作業は、人が近づけないほどの高放射線量で高熱を発生しているガラス固化体を収納したステンレス製容器（キャニスター）を遠隔操作で300m以深の深地層に埋設する危険極まりないばかりか、周辺自治体にもさらには後志管内全域にも風評被害を広げることも懸念されるでしょう。

北海道を核のごみの最終処分地にするな！の声を国にも道にも上げよう！

寿都町長は、文献調査応募表明を撤回し、核のごみ捨て場のない町を！北海道には、「放射性物質を持ち込みがたいことを宣言する」道条例があります。これを遵守し、北海道を核のごみの最終処分場のない安全な道にするよう道知事に求めましょう。

原発連事務局FAX通信 第1016号 2020年 8月21日
原発問題全道連絡会 事務局発行 Tel:011-777-1060、Fax:011-777-1061

北海道を核のごみの最終処分場にするな！

—広がる寿都町民との連帯と町長への「撤回」要請—

今日は寿都町の片山春雄町長が、核のごみの最終処分場選定の第一歩・文献調査への応募の検討を表明してから10日目。この間、道や周辺自治体、漁協、反原発住民運動団体、女性団体、個人などから、寿都町民に連帯し、寿都町長に文献調査検討表明の撤回をもとめ様々な運動が急速に広がっています。

「道新」報道の翌日14日に、小樽地区漁協組合長会（浜野勝男会長、後志管内8漁協と石狩湾漁協）が会議を開いて福島第一原発事故による漁業への風評被害の全国規模での影響を振り返り「応募に断固反対」を確認、寿都町長に対する抗議文を採択したのをはじめ、同じ14日、「核抜き道条例」をもつ北海道から土屋副知事が寿都町役場で片山寿都町長と面談し、核抜き道条例順守と応募を控えるよう要請、15日には原発連が「北海道と寿都町を核のごみの最終処分場にしないよう求める声明」を安倍首相、鈴木道知事、片山寿都町長宛に発信、17日には脱原発苦小牧の会が寿都町長宛「声明」発信、18日には行動する市民科学者の会・北海道が小野有五事務局長名で寿都町長宛の手紙を送付、同日には黒松内、蘭越、島牧の3首長が会議を開き「慎重要請」を確認、新婦人の会道本部が「撤回」要請文送付、大田勤岩内町議も撤回要請文送付、19日には後志・原発とエネルギーを考える会が蘭越町内で会議を開催し40人余が参加し、9月に決めるのは早すぎ、黒松内低地断層帯もあり適地と思えないなど再考を求める声が相次いだ・・・など、日増しに運動が広がっています。

福島原発事故被災の生業訴訟原告から「道原発連の声明に感謝」との電話

20日には、道原発連が15日付で声明を首相と道知事、寿都町長に発信したとの記事（「しんぶん赤旗」16日）読んで、頑張っていることはありがたいと道労連の三上友衛議長（道原発連代表委員）あてに電話が入りました。引き続き運動を広げましょう。

「鈴木知事と寿都町長に伝えよう

やめて！ 核のごみ捨て場 文献調査受け入れ」

“三越からサツエキまで ちょっと離れてスタンディング”にご参加をー

Syut泊の川原茂雄さんから、脱原発をめざす女たちの会・北海道主催の上記のスタンディングに参加しようとの呼びかけがありました。札幌から、北海道・寿都町を核のごみ捨て場にするな！の声をあげましょう。なお、参加者は、各自「ボード」を作成して持参下さいとなっています。日程は、下記の通りです。

◇日時 8月29日(土)15:30~16:30

◇集合 大通西3丁目(集合打ち合わせ後、ちょっと離れてスタンディングです)

核のごみ最終処分場問題に最適の「ブックレット」 地団研発行 頒価1部100円

「高レベル放射性廃棄物」はふやさない、埋めない

—「科学的特性マップ」の問題点— (ご希望の方は、米谷まで)

原発連事務局FAX通信 第1017号 2020年 8月24日
原発問題全道連絡会 事務局発行 Tel:011-777-1060、Fax:011-777-1061

8月キェル/フライデーにご参加を！

- ◇日時 8月26日(水)12時15分～同45分
- ◇場所 JR札幌駅北口駅前広場(西出口)
- ◇主な行動 リレートーク(北海道と寿都町を核のごみ捨て場にするな、原発ゼロ基本法を実現しよう、日本政府は核兵器禁止条約に直ちに批准を、泊原発再稼働するな！直ちに廃炉に！)、泊原発再稼働賛否問うシール投票。

北海道・寿都町を核のごみの最終処分場にするな

一広がる寿都町長への「撤回」要請 ～ オンライン署名や紙署名も一

黒松内町在住の佐藤ふたみさんが、オンライン署名「寿都町に核ゴミはいりません！子どもたちが遊べる自然を守りたい。寿都の核ごみ受け入れに関する調査の受け入れを考え直してください！」を8月20日から開始しています。現在署名数は2500を超えているようです。寿都の水産加工経営者やその後継者、子どもを持つ母親など8人が呼びかけ団体「寿都に核のゴミはいらない町民の会」を組織し、片岡春雄町長あての紙署名「高レベル放射性廃棄物の最終処分場の文献調査の応募に撤回を求める、寿都町へ働きかける運動に賛同し署名をいたします」(添付)を開始しています。これらの署名は、8月26日に町長が非公開で開催を予定している寿都町内の経済団体代表などへの説明会までに提出される予定です。「町民の会」では、まず明日25日までに集約できたものを、26日に片岡町長に提出の予定です。

9月9日「町民の会」必着で紙署名を集め送付しましょう

いまのところ8月26日に寿都町長が応募断念を表明する気配はなく、9月に町内5カ所で町民説明会を開く予定です。今決まっているのは9月10日(木)の町民への説明会だけで、残りの4カ所の日程は追って決まる予定です。したがって、この紙署名は、9月9日までに「町民の会」必着で送付すれば間違いなく町長に提出されると思います。「町民の会」の住所と電話番号は、紙署名用紙の最下段に明記されています。そこに送付しましょう。

札幌でのスタンディングに参加しましょう

「鈴木道知事・寿都町長に伝えよう

やめて！ 核のごみ捨て場 文献調査受け入れ」

Syut泊の川原茂雄さんから、脱原発をめざす女たちの会・北海道主催の上記のスタンディングに参加しようとの呼びかけがありました。札幌から、北海道・寿都町を核のごみ捨て場にするな！の声をあげましょう。なお、参加者は、各自「ボード」を作成して持参下さいとなっています。日程は、下記の通りです。

- ◇日時 8月29日(土)15:30～16:30
- ◇集合 大通西3丁目(集合打ち合わせ後、ちょっと離れてスタンディングです)

原発連事務局FAX通信 第1018号 2020年 8月27日

原発問題全道連絡会 事務局発行 Tel:011-777-1060、Fax:011-777-1061

8月チェルノブイリデーに7団体12名参加

—原発ゼロ基本法実現、北海道を核のごみ捨て場にするな！—

チェルノブイリ原発事故から34年4カ月目の8月26日、JR札幌駅北口駅前広場で「原発と人類は共生できません」「原発ゼロ基本法を実現しましょう」「泊原発の再稼働を許さず、直ちに廃炉に追い込みましょう」「再稼働の賛否を問うシール投票にご協力ください」「今急浮上してきた寿都町での高レベル放射性廃棄物・核のごみ



“の最終処分場の候補地選定への第一段階・文献調査の受け入れ検討表明は、北海道と後志管内を核のごみ捨て場にするという問題であり許せません。”「北海道と寿都町を核のごみ捨て場にするな！の声をあげましょう」などとアピールしました。(写真は、寿都町長に8月21日、核のごみの候補地選定の第一段階・文献調査受け入れ検討の撤回を寿都町長に申し入れたと報告する畠山和也前衆議院議員とボードを掲げる仲間たち)

この日の泊原発の再稼働の賛否を問うシール投票は、反対26、賛成4でした。

寿都町での核のごみの最終処分場選定への文献調査応募めぐる動きが激化 撤回求める「町民の会」の署名、町内外に急速に広がる

—8月26日町議、町内経済団体への説明会后、町長“状況は厳しい”と表明—

寿都町長の文献調査受け入れ検討表明から2週間。町内外で「受け入れ検討表明撤回を」求める運動が急速に広がっています。「寿都に核のゴミはいらない町民の会」(本田英人、南波久氏ら町民8氏が呼びかけ人 以下、「町民の会」)が、呼びかけている「高レベル放射性廃棄物の最終処分場の文献調査の応募に撤回を求める、寿都町へ働きかける運動に賛同し署名をいたします」署名(寿都町長 片岡春雄様宛)は、8月26日までに「町民の会」に、町内から500筆超、町外から5千筆超が寄せられ、急速に広がっています。「町民の会」は引き続き署名を継続し、町長に撤回を迫る決意を固めています。

片岡春雄町長は、26日の町議会議員、町内の経済団体代表らへの説明会(非公開)後の記者会見で、「状況は厳しい」との認識を示し、この後9月に行なう6回の町民への説明会を経て、応募するかどうかを判断するとしています。判断の時期は、9月中は無理で、10月にずれ込むとの認識を示したと報道(「道新」、NHK いずれも27日)されています。

道原発連 ～ 9月9日「町民の会」必着で、署名への協力を呼びかけ

原発問題全道連絡会は8月26日の役員会で、「町民の会」の署名への協力を呼びかけることを確認し、27日にMLで呼びかけを発信しました。集めた署名は、9月9日「町民の会」必着で送付するよう呼びかけています。「町民の会」の住所は、署名用紙にあります。

北海道を核のごみ捨て場にするな！札幌スタンディングにご参加を 明日29日午後3時30分 大通り西3丁目集合

◇日時 8月29日(土)15:30~16:30

◇集合 大通西3丁目(集合後打ち合わせして実施)。各自ボードを持参しましょう。